

第 2 回北海道ブロッククラブミーティング2010開催報告

- ・日時：<第 1 日目>平成 22 年 11 月 12 日(金) 13:15~16:00
<第 2 日目>平成 22 年 11 月 13 日(土) 13:15~16:40
- ・会場：北海道立総合体育センター北海きたえーる 小研修室、講堂・視聴覚室

はじめに

北海道札幌市において、第 2 回北海道ブロッククラブミーティングが開催された。

第 1 日目参加者は、創設支援クラブ(1 年目: 8 クラブ、2 年目: 3 クラブ) 21 名、講師等関係者を含め計 35 名であった。

第 2 日目参加者は、主に自立支援クラブ、総合型地域スポーツクラブ北海道ネットを対象とし、設立済みクラブ(自立支援: 19 クラブ、協議会加入: 5 クラブ) 50 名、さらに創設支援クラブ(1 年目: 7 クラブ、2 年目: 1 クラブ) 11 名、ブースめぐり発表者等関係者を含め計 79 名であった。

内容については、以下のとおりである。

<第 1 日目>

講演・実技 テーマ「スポーツ教室に役立つレクリエーション」

講師：北海道レクリエーション協会 人材開発委員会委員 古本 真希 氏

- ・伊端班員より講師の古本先生を紹介の後、コミュニティー能力を高めるための実技を中心とした活動が行われた。

講師と参加者との「あとだしじゃんけん」、「グーパー」から始まり、参加者同士での「2人(みんな)でグーパー」「こっち向けホイ」「握手で仲間探し」と徐々に参加者同士のコミュニケーションの幅が広がり、ここで「数あつまり」の導入によってグループ作りに入り、グループごとでのレクリエーションゲーム「お地蔵さん大福食べた」「チクタク・ボン」「キャッチ」「人間知恵の輪」を行い個から集団、そしてゲームへの展開を行う事によって空間がなごみ笑顔いっぱいの時間であった。実際の現場でもすぐに使える内容に、参加者もうなずきながら活動を楽しんでいた。みんなが夢中になるレクリエーションの良さを実感した内容であり、クラブ運営にも役立つものとなった。



不安解消みんなで討論～不安や疑問ざっくばらんに意見交換～

テーマ 役員のつぶやきから・・・

正直言って(クラブづくり)面倒くさいんだよねえ

どうやって会員集めるの？

人の集まるスポーツ教室のメニューって何？

会費いくらにする？払うやついるべか？

人材(リーダー)いなくて不安。どうすりゃいいの

真剣にやる人少なく不安。行政が手を引いたら大変だわ

コーディネーター：伊端 隆康 班員(北海道ブロック地方企画班)

助言者： 北海道ブロック地方企画班

山本 理人 班長、山本 豊 班員、久保田 智 班員、林 良彦 班員

財団法人北海道体育協会 クラブ育成アドバイザー

加藤 保、工藤 誠、白井 修

総合型地域スポーツクラブ北海道ネット 事務局長

足立 直人

- ・伊端班員よりテーマ設定の理由や進め方の説明を行い、事前に調査していた11クラブミニミニアンケートからクラブが抱える点として多く挙げられた 組織化について、会費について、 スタッフ・指導者について、 参加者募集について、 行政との関係について、 メニュー作りについて、 不安・面倒なことについて、 の7つに絞り、参加者は自分たちのクラブを項目ごとに評価(問題なし、 何とかなりそう、 不安、 心配、 ?その他)し、それら評価をホワイトボードに書き出し意見交換を行った。
- ・創設支援クラブの中で不安にあげられたのは、 toto 事業事務処理の問題、 受益者負担・会費設定、 組織化、 まだ先が見えていないという点が挙げられた。
- ・創設支援 1 年目のクラブに対しては、 今後の準備段階でアドバイザーからの助言や担当者会議の中で解決される部分であるという意見が出された。
- ・今年度中に設立を目指している 5 クラブについても目的は作るのではなく、 地域に根付き続いていくクラブづくりが大切であるという助言が大半を占めた。



まとめ

コーディネーターの伊端班員より、各地域の特性にあったクラブづくりが重要であり、身の丈にあったクラブが息の長いクラブになり、各地域のクラブ間交流をしながら総合型地域スポーツクラブを盛り上げていきたいと思いますというエールで締めくくった。

<第2日目>

ブースめぐり

全体コーディネーターである山本 理人 班長（北海道ブロック地方企画班）より、4つの発表クラブの紹介を行い、ブースめぐりの流れについて説明する。

～ブースめぐりの流れ～

- ・ 30分×2ローテーション、休憩、30分×2ローテーションを行う。

（参加者は4クラブ全て巡ることができるが、さらに詳しく聞きたい方は2回目以降も同じクラブでの情報を深めることができる）

～発表クラブと特徴～

羅臼スポーツクラブ「らいず」(羅臼町)発表者 平原 英雄氏(会長)

- ・ 知床半島の自然を生かした活動と個性豊かな運営委員が楽しみながら企画している
幕別札内スポーツクラブ(幕別町)発表者 小田 新紀氏(クラブマネジャー)

- ・ NPO法人格取得と共にスポーツ施設の指定管理受託を目指す

清柳スポーツクラブ(帯広市)発表者 増田 久美子氏(事務局長)

- ・ 地域に根差した活動ができるのは「学校の協力」が大きい

桜が丘ひぶなクラブ(釧路市)発表者 菅原 登美枝氏(クラブマネジャー)

- ・ 楽しい介護運動のできる複数のプログラム(笑いヨガ、ふまネット)を実践している



ブースクラブより応援メッセージ

羅臼スポーツクラブ「らいず」: 20～60代の運営委員が地域のためにどんな楽しい事が出来るだろうと企画を考え、自らが楽しんでます。それがクラブの誇りでもあります。

幕別札内スポーツクラブ: 設立1年目でまだまだこれからのクラブです。自分のクラブもたくさんの方の事を学びながらクラブ運営をしている最中です。頑張りましょう。

清柳スポーツクラブ: 地域と共に4年が過ぎています。まだまだ、これからのクラブです。今後も協力し合って成長していきましょう。

桜が丘ひぶなクラブ: 「笑いヨガ」を通して笑いというものから元気とパワーをもらっています。みなさんも大いに笑ってクラブを育てていきましょう。

まとめ

コーディネーターである山本 理人 班長(北海道ブロック地方企画班)よりまとめの言葉をいただいた。今回のブースめぐりでは、特色ある4つのクラブから発表をしていただき、その中で自分のクラブで使える事など、自分の地域にあったスタイルでクラブ運営

に活用して行ってほしい。この4クラブは、それぞれの地域を活かした活動を行っており、皆さんも地域に目を向け、身の丈にあったクラブづくりをしていただきたい。最後に皆さんの今後の活躍を祈念して閉会した。

(報告：北海道ブロック地方企画班 班員 久保田 智)